

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述式・記述式

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

大きな分量の変化はなく、昨年と同様に時間的余裕はない。

出題の特徴

I・IIがアジア史、III・IVが欧米史という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

その他トピックス

Iの論述問題で、昨年に続いて中国史が出題された。

IIIの論述問題で、5年ぶりに古代ローマ史が出題された。また、6年ぶりに指定語句を用いた出題でもあった。

IVでは、空欄補充問題がなくなり、すべて下線設問の問題であった。

2014年冬期講習「京大世界史」第5講実戦問題1が、IIIの「ローマ国家の軍隊と政治体制の変化」にズバリの中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	清代末の4つの対外戦争	清代末に勃発した4つの対外戦争とその結果を述べる問題。「講和条約に規定された諸外国への経済的権益の承認」「清と隣接国家との関係改変」「清がどのような状況に陥ったのか」と求められている条件が多いために、具体的な内容を手際よくまとめることがポイント。	やや難
II	A 記述	中国における南北	先史時代から19世紀までの中国の歴史における南北の関係を概観した問題。dの「海禁」は、設問文のヒントが少なくやや難しい。	標準
	B 記述	シーア派の歴史	7世紀から20世紀後半までのシーア派の歴史を扱った標準的な問題。	標準
III	論述	ローマ国家の軍隊と政治体制の変化	前3世紀から前1世紀にかけて生じたローマ国家の軍隊と政治体制の最も重要な変化を説明する問題。指定語句を踏まえて、具体的な事例をあげて言及し、300字という字数でどう簡潔にまとめるかがポイント。	やや難
IV	A 記述 論述	社団の形成とその活動	11世紀から17世紀までのヨーロッパにおける社団の形成とその活動を扱った問題。	標準
	B 記述 論述	カトリックとプロテスタント	11世紀から19世紀初めまでのカトリックとプロテスタントの関係を扱った標準的な問題。	標準
	C 記述 論述	特定の民族・人種・地域・宗教に属する人々の一体性	19世紀から20世紀までの世界の様々な地域に生まれた、特定の民族・人種・地域・宗教などに属する人々の一体性を強調する考え方を扱った問題。小論述については、問題文の要求する論点をはずさず、簡潔にまとめることが大切。	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年、II・IVの記述問題でなかなか手強い問題が増えてきている。しかし、全体としては高等学校の学習範囲を超えるものではないので、教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けたい。その上で、論述問題の出来・不出来が合否を左右するだけに、普段の学習のなかで、「歴史事象」の因果関係の理解に力点をおいて、「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また、中国史やイスラーム史、古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので、京都大学の過去問の研究を進めておくことは、有効な学習対策となるだろう。